

# シャロームタイムズ

## 平和聖日

去る八月十二日（第二主日）野毛山キリストの教会の平和聖日として礼拝を捧げました。

「平和の道具としての使者として」と金児栄治牧師の礼拝のメッセージを通して、真の平和は人間の罪のため、十字架にかかつて死んで下さったイエス・キリストによる道はないことを改めて思い、祈りました。また、午後の「平和を語る会」では、二人の姉妹のお話、うた、ビデオなどを通して、平和について考えるよい会となりました。子どもたちから、ジュニアチャーチ（中学生）大人まで、戦争を体験した世代、しない世代、皆一緒に「平和」について考え、キリストによる真の平和を祈る大変よい会となりました。

### 私の考える平和

内海 恵

「平和」について考えるにあたり、何冊か本や絵本を読んだのですが、その中で「ひとりじゃないよ」という絵本が私の心の中に強く残りました。この絵本は、国境を越えた人権活動を行なっている「アムネスティ・インターナショナル」という国際的な民間のボランティア団体が同じ地域に生きていながらさまざまな状況におかれて苦しんでいる子どもたちのことを多くの人に知ってもらいたいという思いから作られました。日本でも幼児虐待、少年犯罪など毎日のように心傷むニュースが報じられています。しかし日本では想像もつかないような深刻な人権侵害など多くの問題が大規模に組織的に行なわれているというこの絵本を通して知りました。子どもたちが直面している現状はさまざまです。紛争に巻き込まれて殺されたり、無理矢理兵士にさせられ戦いに参加させられたり、世界中で三十万人以上の十八歳未満の子どもが銃を持たされ、内戦のために家を失い、難民となって明日の命さえもわからない子どもたち、ひどい環境の中、強制的に労働させられている子ども。他にも世界中には一億人もいるといわれている親もなく、貧しいために路上で生活するいろいろな経験：楽しい経験をたくさんして心豊かに

成長していくべきはずの「子ども時代」を奪われ、苦しんでいる子どもが多くいます。戦争が終わり、日本は平和になったのかも知れませんが、しかし世界に目を向けた時、これほど多くの子どもが苦しんでいる今の世の中は決して平和とは言えないと思います。この「ひとりじゃないよ」の絵本の中では「平和とはきれいなものを見て夢中になること」と書かれていました。私も美しい自然の中できれいな景色を見ているとき、「幸せだな」と心から思います。しかし世界中の子どもたちの中には辛い現実の中でそんな幸せだと思える時を感じられず日々を暮らしている子どもが多くいるのだと思います。戦争を知らない今の日本の子どもたち、私自身もそうでしたが、毎日おいしいご飯を食べ、学校に行って、たくさん遊んで、自分の命の心配などなく、暖かい布団で眠れて：そのことに感謝することもなく、あたり前だと思って過ごしていました。しかし今現在も苦しんでいる子どもたちが多くいることを覚え、神さまに守られ毎日を過ごしていることをいつも忘れず、感謝して過ごして行くことの大切さをあらためて感じました。ユネスコ憲章では「戦争は人の心の中で生まれるものであるから、人の心の中に平和の砦を築かなければならない」とうたっています。平和とは戦争がない状態だけを指すのではないと思います。世界中の子どもたちがみんなが幸せに、毎日を安心して暮らせる世の中。そしてこのびのびと自分らしさを発揮して暮らすことのできる世の中。それが「平和」なのではないかと私は思います。国連ではひとりひとりが家庭で、学校で、職場で、そして地域社会で心の中に平和を育んでいこうという二十一世紀の新たな決意として二〇〇一年から二〇一〇年までを「世界の子どもたちのための平和の文化と非暴力の一年」とすることにしました。

- ① 私たちひとりひとりの心がけと行ない、心の中の「平和」によって平和な世界の実現へとつながっていくのだと思います。またユネスコでは世界中のみんなが心の中で誓う「私の平和宣言」を決めました。
- ② この「私の平和宣言」とは
- ③ ①すべての人の生命を大切にすること
- ② いじめや暴力をなくすこと
- ③ 思いやりの心を持ち、助け合うこと
- ④ 相手の身になって考えること

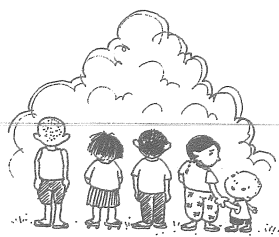
⑤ かけがえのない地球環境を守ること  
⑥ みんなで力を合わせることで、以上六つのことです。どれも本当に大切なことばかりだと思います。世界中の人たちがみんな：おとも子どももこの六つのことをいつも心がけ、行っていくことができれば、きっと平和を築けると思います。私も平和宣言を忘れず行っていく者でありたいと思います。そして神さまからいただいた愛のひとりひとりの大切な命、地球の美しい自然、多くのお恵みに感謝し、世界中の子どもたちみんなが幸せに暮らせる「平和」な世界の中が実現しますよう祈り続けていきたいと思えます。

56回目の原爆の日を迎えて

ヒロシマ	この一年に亡くなった人	4757人
		221893人
ナガサキ	この一年に亡くなった人	2439人
		126630人

キリストの平和  
塩田 泉 詞・曲

キリストの平和が  
キリストの光が  
キリストの力が  
キリストの命が  
キリストのゆるしが  
キリストの香りが  
わたしたちの心の すみずみまで  
ゆきわたりますように・・・



# シャロームタイムズ

## 私の考える平和 水野 陽子

「今の日本人の平和論は自分が死ななくても済むという予測のもとに言われている平和論である」と曾野綾子さんの小説にあります。その通りでわたしが述べた平和論は全く机上のものでしかありません。しかし、様々な資料をもとに、自分なりに平和について考えることは意義のあることだと思えます。

二十一世紀に入っても、世界では紛争が絶えません。その多くは民族紛争、または宗教紛争というものです。民族、文化、宗教で歴史の中でお互いの違いを対立、そして争いという形で浮かび上がらせてきたのです。違いを尊重しあい、平和な世界をつくりたい、きつと世界中の誰もが思うだろう願いですが、残念ながら人類はその願いを未だ達し得ていません。神さまがお造りになったものの中で、こんなにも同じ種類の中で殺しあう生物は他にいません。人間はそのいただいていては、他人との違いを不快に感じ、自己を防御するために自分と違う人々と敵対します。ひとりひとりの心を考えるにあまりに価値観や考え方が違う相手に対しては、多少なりとも不快感を持つことが人の気持ちとしては自然だと思えます。しかし、人間にとつて、自然であることが全て正しいわけではありません。神さまは、人間をそのような自然にあふれてくる敵対感情を乗り越えていくべき存在としてつくられたのだと私は思います。

動物や植物たちは神さまからいただいている本能に従えば生きていけるようにできています。しかし、人間だけは、自分たちで考え、行動する自由と責任が神さまから与えられています。人間には他の生物にはない失敗や苦難が用意されているのです。それは、ひとりひとりの一生にも人類史にもです。ある本で「苦しみが無いと祈らないから、神は私たちに祈りをわすれさせないために、苦しみを与えにする」とありました。非常に重みのある文だと思えます。人々の心に争いを生む民族や文化や宗教の違い、この違いを受け入れるということとはとても難しいことです。自然の流れにまかせていたらできません。感情は理屈ではないからです。しかし、だからこそ聖書は「敵を愛しなさい」と

いう不自然にも聞こえることを私たちに告げているのだと思えます。幼稚園の子どもの世界では、はじめは同じ遊びを楽しむタイプの子どもの世界では、はじくしていきませんが、年齢が上がってくると、少し違うタイプの友だちとも遊べるようになり、自分の視野を拡げていきます。多少のぶつかりあいがあっても、それをきっかけに相手のことを深く考えられるようになるのです。

人格の成熟とは、自分と違うタイプの人のとのつきあいを楽しめるようになることだと思えます。同じように、人類も、民族、文化、宗教の違いを乗り越えて、それぞれが納得できる平和をつくりあげていくことこそが、成熟への道のりなのだと思うのです。

人類が成熟していくためには、自然の流れにまかせただけではなく、いただいている智慧をもっと使うことが必要とされるでしょう。これまで長い歴史の中で、戦争を繰り返してきた人間にはそれは不可能だとは思いません。人類は時間がかかっていますが、その心も進化してきたと思うからです。何故なら、今ある大国のほとんどが、百年前には、自国の利益のみを追求し、他国を侵略し、他国の地を、人を、財産をふみにじること何のためらいも感じていなかったのに、二十一世紀の現代、それを当然だ、正しいことだと明言する国はもう存在しないではありませんか。もしも仮にそのような政治をする政府があったら、それは世界中から非難され、孤立するでしょう。今、世界の国々は、自国一國のみの平和と繁栄だけを求めるのではなく、全世界の平和を願っています。人類の心は進化していると私は思っています。神さまは、そのように進化していく私たちを見て下さると思えます。他の生き物と同じように、本能だけ、自然の流れだけで生きていくのは、人として決して正しい生き方ではないと思えます。それは「肉に従って歩む者」(ローマ八章)でしかありません。ひとりひとりの心に平和のための意識的な努力が必要なのです。人は考えること、祈ることができるのです。私の考える平和とはこのようなものです。

今年のビデオ  
「天に焼かれる」 金崎 是 作・絵  
作者の金崎さんがもうこんなことは二度とおこしてはいけないという思いで書かれた実際の話です。  
ヒロシマの映像  
八時十六分を指してとまった時計  
原爆をうけた三輪車。そして原爆ドーム  
たった一発の原爆でたくさんの方の命が奪われ、たくさんの方が失われました。  
木も原爆をうけました。被爆樹です。  
エノキが伸びていたヒロシマの青い空、その空をキノコ雲が真つ黒に覆い尽くしました。  
黒坂黒太郎さんがヒロシマの空を歌った「空」という曲をつくられました。その「空」という曲、コカリナの演奏をバックにヒロシマの原爆の映像を見ました。

### 参加された方から一言..

◇平和聖日の礼拝はクリスマスやイースターとはまた違つて非常に大切な意義深いものだと思います。体験したものが語りつづけて行き、この良い会を長く続けてほしいと思います。(仁田秀子)

◇お二人の若い方のお話をうかがい、年をとつた我々、戦争を体験した者としらない人と考えは違つてもありプロセスは違つても、平和を願うという行き着くところは同じだと思えました。ヒロシマのことは私も実際は知らないで、少したつてから聞いたことです。ビデオを見てあんなだったのかと初めて知ったこともありました。(島津嘉夫)

◇学校も夏休みで、平和について考えたりする機会がありませんが、このように教会・教会学校で子どもたちと一緒に考える機会が与えられたことにとても感謝しています。(富永優子)

◇戦争のことかぜんぜん知らないけど、ビデオをみて少し分かつて貴重な体験をしました。(楠 良太)

うた  
平和の琉歌  
イマジン  
ヒロシマの有る国で  
桑田佳祐  
ジョンレノン  
山本さとし  
詞曲  
詞曲

